シンポジウム

「どうする大館――若者は提言する」

まちづくり21世紀計画

昨年十一月三十日、市と青年会議所が二十一世紀へ飛躍する大館市のまちづくりを考えようと「まちづくり二十一世紀計画」シンポジウムを開きました。シンポジウムでは、観光、産業、人づくりについて市民から大館の現状を見つめたうえで明日のまちづくりについての貴重な提言が述べられました。それについてアドバイザーからは経験や事例を混じえた助言があり、予定時間をはるかにこえる熱のこもった討論が繰り広げられました。

アドバイザー

三宅　淑　（秋田県中小企業振興公社理事長）
山本　悦　郎（山本建築設計事務所代表取締役）
渡部　誠一郎（秋田魁新報社取締役論説委員長）
畠山　健治郎（大館市長）

コーディネーター

清水　浩志郎（秋田大学鉱山学部教授）

どうする観光

大館青年会議所理事長越後国行・開会に先立ちまして、一言述べさせていただきます。地域興しというのは、連日テレビ、新聞で見ておられると思いますし、そのためのシンポジウムも開かれています。しかし、どんなアイデアや提言が出されても実現のためにあらゆる困難を乗り越えて、わが古里の新しい未来のために愛と信念を持って実行していくという心構えが必要だと思います。今日のシンポジウムは提言だけの場に終ることのないよう市民の皆さん一人一人が立ち上っていただきたいと思いますし、わが古里の未来像について夢を語り合っていただきたいと思います。

清　水・これからシンポジウムに入るわけですが、私、この「どうする」という言葉を聞いたとき、ドキッとしました。それほど居直りに近い言葉にもとれるわけで、大館の皆さんはたいへん危機感をもっているということを感じました。さて今日のテーマは三つあります。第一が「どうする観光」、第二テーマの「新しい地場産業興し」、第三テーマの「人づくり」の観点から話し合いをしていただきます。それでは第一のテーマの「どうする観光」ということについて秋田相互銀行大館支店長の村山健一さんから、ご提言をお願いします。

村　山・私は、東京に四年、札幌に二年、都会生活をしてきました。大館に入った第一印象はなだらかな山並み、それから町並み、地名、町名、それに商店街と住宅街がキチンとなっており、城下町の名残りがあります。これらを生かして修学旅行コースをつくることができないかどうかを常日ごろ考えています。修学旅行コースというからには曲田の教会、松下村塾などの活用、まつりへの参加、それにプラスして体験学習、地元小中学生との交流を行ってもいいと思います。この交流によっておみやげ品の工夫、あるいは地場産業をどうしたらよいかということに、いろんな見方や情報が入ってくるのではないでしょうか。このためには大館を売らなければなりません。例えば角館です。「雲のじゅうたん」というテレビドラマ以来急激に人が増えています。いま弘前、津軽は「いのち」でPRされています。大館市には忠犬ハチ公や、上原敏さんなどがPR、テレビドラマの材料になるのではないでしょうか。観光は、ただ見て通り過ぎるだけじゃなくて、そこに遊びが工夫されています。再び来てもらうという意味からも修学旅行コースをぜひ検討してみてください。

清　水・続いて貝森善勇さんにお願いします。

貝　森・いま大館に求めたいものは、友だち同士や家族そろって休日を過ごせるレクリエーションゾーンや、気軽に汗を流すことのできるスポーツ公園です。十和田、八幡平が背景にあるものの単なる通過地となっている大館は、これらの建設によって十分引きつけることができると思います。十和田インターまたは碇ヶ関インターから市内まで二十分に位置する大館は条件がそろっています。矢立には地形を利用した巨大アスレチック、山道には遊歩道を設置し森林浴を満喫してもらう。大滝温泉には、お湯や地熱を利用した植物園をつくったらどうでしょう。結論として、長根山運動公園の拡張とレクリエーションゾーンの建設、矢立・大滝温泉に新たな施設の導入と宿泊機能の向上、アメッコ市を見るまつりから参加するまつりへ発展させる。また、冬まつりを増やし、冬大文字や鳳凰山からの花火など、新しい企画を考えたらどうでしょうか。

貝森さん

清　水・続きまして吉田秀人さん

◆お願い――この「まちづくり21世紀計画」シンポジウムを読んでのご意見、ご感想をお寄せください。また住みよい活力のある大館市をつくるため市民の皆さんのご提言もお願いします。　送り先・大館市字中城20番地　大館市役所総務課秘書広報係